

わ が 街 わ が 故 郷

株式会社ジェイテクト徳島工場と 徳島県そして藍住町

徳島工場の紹介

徳島工場は、当初徳島市庄町で昭和19年に操業を開始しました。昭和38年に現在の板野郡藍住町に移り現在に至っています。

敷地面積は約15万㎡で、従業員は約1000名が在籍する工場です。



徳島工場管理棟

工場は、約800m南に日本三大暴れ川の一つ「四国三郎」の異名を持つ大河『吉野川』の清流が流れ、北には香川県との境を阿讃山脈が横たわる自然豊かな環境の中にあります。

一方、1994年に工場の南側に高速「徳島道」の「藍住」ICが開通し、また2002年に工場北側には「高松道」の「板野」ICが開通しました。神戸淡路と結ばれ高松自動車道とも繋がることで、車で高松へは45分、大阪地区へは2時間程度で行き来ができるようになりました。

製造品種は、深溝玉軸受・水ポンプ軸受・ハ

ブユニット軸受・特殊環境軸受・テンションアイドラプーリー軸受ユニット・円筒コロ軸受などを製造しています。主に自動車に使用する軸受を、鍛造から完成品まで一貫して製造する工場で、ISO14001・OSHMS等を認証取得し、クリーンでセーフティーな職場を目指しています。

工場のメイン通路には、近隣よりいただいたやしの木が大きく成長し工場のシンボルとなっています。また、工場の周辺には町の木として指定されている楠を町役場からいただき、地域と協力をして緑豊かな環境作りを行っています。



工場メイン通路のやしの木

徳島県

徳島県は面積約4,145km²で、その約8割を山地が占めています。1,000mを越える山も数多く、県内の最も高い山は四国山地中の剣山(標高1,955m)で、四国第2の高山です。その剣山を中心とした剣山地は県を南北に分ける分水嶺で、

その北方を流れる吉野川は水源を遠く高知県に発し、本県に入って大歩危・小歩危の深い峡谷を作り、三好市から東に転じ、東流するにしたがって広く、くさび形の徳島平野をつくっています。

古代、忌部氏が吉野川流域を開拓したとき、粟がよく実ったので、この地域を粟の国といい、一方南の勝浦、那賀、海部三郡のあたりを長(なが)の国というようになったと言い伝えられています。大化の改新には、これらの国を併せて阿波の国と呼ぶようになったのだそうです。

阿波踊り

徳島と言えば阿波踊りが有名で約400年の歴史があり、徳島県内各地の市町村で開催される盆踊りです。なかでも8月12日から4日間行われる徳島市の阿波踊りでは、市内各所の演舞場や踊り広場に、多くの県外観光客が訪れています。

棧敷から見る、つま先から指の先まで動きの揃った女踊りや豪快かつ華麗な男踊りは、「踊る阿呆」というよりも芸術的でさえあり本当に美しいものです。

ジェイテクト徳島工場でも「連」（踊りの一団）を作り、毎年約200名で繰り出しています。



阿波踊り

すだち

徳島のすだちは徳島県を代表する特産物の一つで、徳島県の花にも指定されています。ミカン科の常緑中高木。花期は5-6月頃で白い花を咲かせ、夏から秋に果実を実らせませす。香りが

豊かであることから、サンマなどの焼き魚をはじめ様々な日本料理で使用されます。

大阪市中央卸売市場における徳島産すだちの市場占有率はほぼ100%で、近年、東京では高級食材として知られるようになっています。



すだち

藍住町

徳島県の中央を流れる吉野川の下流北岸に位置する藍住町は、旧吉野川と吉野川に囲まれた板野郡のほぼ中央にあります。いわば、たゆまぬ吉野川の沖積によってできた平坦な土地で、海拔はわずか5.17m。山がまったくない珍しい町です。

かつては藍の栽培が隆盛を極め、全国的に広まりましたが、近年では肥沃な地味と温暖多湿で水利の便に恵まれた条件を生かし、全国有数の春ニンジンの産地となっています。

藍染

日本古来より藍は染料として庶民に使われ、その美しさは『青は藍より出でて藍より青し』（弟子が師匠よりすぐれている）という例えのように表現され親しまれてきました。

藍住町の名前の由来にもなっているその藍染。藍住町では昔から藍の生産が盛んでした。藍は中国から輸入され、古くから栽培されてきました。その始まりは、平安時代にさかのぼります。この時代から畿内への葉藍の出荷が始まり、戦国時代には、武士のよろい下を藍で染めたもの

が多く出まわるようになりました。

阿波藍が全国に普及していくきっかけとなったのは、江戸時代に阿波を治めた蜂須賀氏が、藍栽培や藍の加工を奨励したためといわれています。

工場の南約500mのところに『藍の館』があり、藍の歴史と栽培方法を見学することができ、藍染の体験もできます。



藍の館

(株式会社ジェイテクト 徳島工場 森 通宏)